

平成 30 年度 自己評価結果公表シート

フレンド幼稚園

1. 本園の教育目標

のびのびいきいきした保育の中で、未来を担う、「心」「知」「体」を育成します。
 「心」友だちから相互に学びあい、友だちと幸せを共有できる心を育てます。
 「知」自分で考える知力を育成し、子どもの無限の可能性を芽吹かせます。
 「体」「心」「知」の基礎になる、元気に遊べる健康な体を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教職員が評価項目に沿って、自己評価することによって、自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善等に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
新制度への移行の準備	認定こども園に向け、教職員の共通理解を深めスムーズに移行できるよう努めた。 保護者説明会等を実施し、保護者に認定こども園への移行に理解と協力がいただけました。 認定こども園の基準にあった設設備整備を行った。
働き方改革の推進	週 1 回の No 残業 day を実施することができた。週 2 回の No 残業 day については、継続して実施できるように努力する。
0 歳～5 歳の乳幼児期の発達段階に合わせた保育研究と実践計画の整備	認定こども園移行に備え、0 歳から 5 歳の子どもの育ちを研究し、その研究内容を踏まえ、一年一年、ひと月ひと月、1 週 1 週、1 日 1 日の実践的保育計画を整備するように努めた。PDCA サイクルを用いて、計画・実行・評価・改善を繰り返し行うことにより、よりよい教育が提供できるように努めた。
安全管理と、危機管理マニュアル等の見直し、整備し、共有化	地震・火災等に対して避難できるように繰り返し訓練を行い、教職員と園児の安全に対する意識を更に高める。また、園児の安全確保について全教職員が意識を強化することに今後も努め、専門講師による防犯教室・交通安全教室等を実施し、園児自身にもより意識させるように努めた。 更に、危機管理マニュアル等の各種マニュアルを見直し、整備を行い適切な対応が取れるように努めた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、教職員が共通に理解し、各自が適切に自己点検、自己評価を行うことで、自己の課題、園としての方針を明確にすることができた。また、今年度中に目標に達しなかったところ、不十分であったところについて反省を行うと共に、今後も幼児の成長発達へのよい援助ができるよう努力したいと考えている。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
教育課程	園の教育課程の見直しをして職員間に共通理解をする。 茶道・歌唱指導の専門の先生を招き、園独自のカリキュラムをたて職員の資質の向上を図る。
目標共有制度の導入	人事評価制度を適切に使って、教職員一人ひとりのモチベーションを高め、園全体の成長を目指す。
教職員同士の連携	学年主任会議を定期的に行い、他学年との連携の充実を図ると共に、月 1 回全教職員でミーティングを行う。
自園給食	食育の一環として、園内で調理した温かい給食を開始する。
子育て支援	親子教室(フレンドクラブ) 親子で幼稚園に登園することで、おともたちを作ったり、先生や園児と触れ合ったり、園の行事に参加したり、家庭では味わえない体験を提供する。 カウンセラー事業 臨床心理士の先生を招き、子育て・育児不安等の悩みが解消できるよう個別の相談を行う。 園庭開放 未就園児を対象とした園庭開放を引き続き行う。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。